

第20回宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 次 第

1. 日 時 昭和53年9月27日（水）
午後2時～4時
2. 場 所 宇宙開発委員会会議室
3. 議 題 (1) 第二部会分科会構成員について
(2) 日米専門家会議の日本側メンバー
について
4. 資 料
委20-1 第19回宇宙開発委員会（定例会議）
議事要旨（案）
委20-2 第二部会スペースシャトル分科会構成員
委20-3 第二部会H-Iロケット分科会構成員
委20-4 日米専門家会議の日本側メンバー

委20-1

第19回宇宙開発委員会（定例会議） 議 事 要 旨（案）

1. 日 時 昭和53年9月13日（水）
午後2時～4時
2. 場 所 宇宙開発委員会会議室
3. 議 題 (1) 実験用中容量静止通信衛星（C S）等4衛星の打上げ結果の評価について
(2) リモートセンシング（遠隔探査技術）の研究。開発及び利用の推進に関する方策について

4. 資 料

- 委19-1 第18回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨案
委19-2 実験用中容量静止通信衛星（C S）等4衛星の打上げ結果の評価について（報告）
委19-3 リモートセンシング（遠隔探査技術）の研究。開発及び利用の推進に関する方策について

5. 出 席 者

宇宙開発委員会委員長代理

“ 委員

“ “

説明者

第四部会長

関係省庁職員等

科学技術庁長官官房参事官

運輸省大臣官房参事官

網 島 毅

吉 識 雅 夫

斎 藤 成 文

佐 貫 亦 男

下 邨 昭 三

西 村 康 雄

（代理：藤井）

運輸省気象庁総務部長

“ 海上保安庁総務部長

郵政省電波監理局審議官

建設省大臣官房技術参事官

郵政省電波監理局

宇宙開発事業団

“

“

事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長

“ “ 宇宙国際課長

“ “ 宇宙開発課長

相 良 英 明

（代理：山中）

沼 越 達 也

（ “ ：本田）

浜 田 望

（ “ ：飯田）

北 野 章

（ “ ：土肥）

九 里 茂

平 井 正 一

市 川 洋

飯 塚 裕 久

堀 内 昭 雄

佐 藤 允 克

鈴 木 晃 他

6. 議事要旨

(1) 前回議事要旨

第18回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨が確認された。

(2) 実験用中容量静止通信衛星（C S）等4衛星の打上げ結果の評価について

佐貫亦男第四部会長から資料委19-2に基づいて説明が行われ、以下の質疑応答が行われたのち、報告が了承された。

網島：宇宙開発事業団が米国から十分な知識を得られないのは、米国が情報提供を制限しているからか。

佐貫：情報を提供してもらえないものは仕方がないが、提供してもらえるものについては米国に対し疑問点をはつきり指摘でき

る程度には勉強してもらいたい。

(3) リモートセンシング（遠隔探査技術）の研究・開発及び利用の推進に関する方策について

事務局から資料委 19-3 に基づいて説明が行われたのち、以下の質疑応答が行われた。

網島：今後、センサーが重要な問題になると思うが、諸外国のセンサーに関する情報をまとめたものはあるのか。

事務局：本日配布した資料に各国が使用しているセンサーの種類をとりまとめている。

また、それらの概要についての資料は事務局で収集しているが、まだ未整理である。

網島：我が国でもリモートセンシングにより気圧を測定する研究を行っているのか。

事務局：気象庁で行っている。

斎藤：ランドサット、シーサットの利用成果をどのように MOS シリーズに反映させるかについて考える必要がある。

吉識：世界の地球観測計画の中で MOS をどのように位置づけるのかなど、目的意識をはつきりさせる必要がある。

事務局：リモートセンシング技術の実証は時間もかかり大変な作業であるが、今後、計画的に推進してまいりたい。

斎藤：推進会議は自ら予算をとって、実際に活動できるような性格なのか。

事務局：推進会議自身にはそのような性格はないが、研究調整局としては、54年度予算要求の一つの柱として重点的に推進

することとしている。

網島：このような会議では、巾広い分野の衆知を集めることが必要である。

第二部会スペースシャトル分科会構成員

昭和53年9月
(50音順)

分科会長	荒 木 透	科学技術庁金属材料技術研究所所長
専門委員	渥 美 和 彦	東京大学医学部教授
	梅 川 莊 吉	東京工業大学精密工学研究所教授
	大 林 辰 蔵	東京大学宇宙航空研究所教授
	久保園 晃	宇宙開発事業団システム 計画部次長
	鯨 島 広 年	協和発酵工業㈱技術部長
	菅 野 卓 雄	東京大学工学部教授
	長 洲 秀 夫	科学技術庁航空宇宙技術研究所 宇宙研究グループ総合研究官
	難 波 進	大阪大学基礎工学部教授
	松 田 源 彦	海洋科学技術センター技術顧問
	松 宮 弘 幸	㈱野村総合研究所研究顧問
	御手洗 玄 洋	名古屋大学環境医学研究所教授

第二部会 H-I ロケット分科会構成員

昭和 53 年 10 月
(50 音順)

分科会長	山 内 正 男	新技術開発事業団監事
専門委員	秋 葉 鏢二郎	東京大学宇宙航空研究所教授
	内 田 茂 男	名古屋大学工学部教授
	大 塚 貞 吉	科学技術庁航空宇宙技術研究所 角田支所長
	倉 谷 健 治	東京大学宇宙航空研究所教授
	新 羅 一 郎	明治大学工学部教授
	中 井 暎 一	科学技術庁航空宇宙技術研究所 機体第二部長
	中 口 博	東京大学工学部教授
	平 木 一	宇宙開発事業団理事
	山 口 弘 一	宇宙開発事業団システム計画部長

日米専門家会議の日本側メンバー

(案)

昭和53年9月27日
宇宙開発委員会
了 解

下 邨 昭 三	科学技術庁長官官房参事官
齐 藤 諦 淳	文部省学術国際局研究機関課長
長 洲 秀 夫	科学技術庁航空宇宙技術研究所 宇宙研究グループ総合研究官

(科学分野)	大 林 辰 蔵	東京大学宇宙航空研究所教授
	小 田 稔	東京大学宇宙航空研究所教授
	平 尾 邦 雄	東京大学宇宙航空研究所教授
	野 村 民 也	東京大学宇宙航空研究所教授
(応用分野)	木 村 小 一	運輸省電子航法研究所衛星航法部長
	村 主 行 康	郵政省電波研究所総合研究官
	平 井 正 一	宇宙開発事業団理事
	平 木 一	宇宙開発事業団理事